

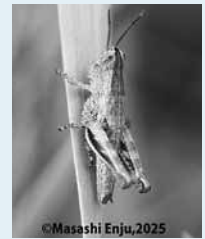


生物多様性調査速報 vol.2

問合せ 産業環境課 ☎ (81) 1115

中井町では、生物多様性を支える半自然環境である草地や雑木林、水田、水路について、2年間の計画で予備調査を進めています。この調査は、希少な生き物がすむ可能性を探るとともに、それらの生息地の現状を把握し、本調査の計画に反映することを目的に実施しています。今回は草地環境での調査速報です。町内の草地は広大ではないものの、小規模ながら町全体に連続して広がっており、希少種が暮らす大切な場所となっています。神奈川県内では本町にのみ生息するセグロイナゴの現存や、神奈川県レッドデータ生物報告書2006において絶滅危惧Ⅱ類に指定されたカヤコオロギの生息する草地が確認されています。また、同報告書で準絶滅危惧種に指定されたクロツヤコオロギが町内全域に生息していることもわかりました。今後は、夏に「ヒメシオン」という希少な植物や「ヒガシキリギリス」などの昆虫の調査を行い、冬にはススキ原でカヤネズミの古巣の探索を予定しています。そして翌春にはヒバリのさえずりを調べ、町全体の草地における生物多様性の現状をさらに明らかにし、本調査が充実するようにしていきます。

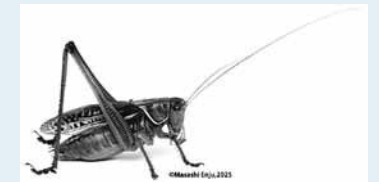
次回は、水田や湿地、河川における生物多様性について、調査結果を速報する予定です。新たな発見を楽しみにしていきましょう！



セグロイナゴ幼虫



カヤコオロギ



ヒガシキリギリス

ちようちよう発し

その21

「80年目の8・15」

戦後80年の8・15を迎えます。正午に合わせ、保健福祉センターで中井町遺族会の皆さまと戦没者追悼式が行われます。日清戦争以降、中井から出征し戦禍に倒れた230余柱をしのび、役場横の忠魂碑にお参りできます。同日、江戸民具街道で当時の真空管ラジオで玉音放送を聞く集い、また、先立つ6日には、広島原爆投下の同刻に松本・泰翁寺で鐘を打ち、被爆者をはじめ戦争犠牲者の追悼と核兵器廃絶を願います。

あまたの犠牲と苦しみ、悲しみの上に、今日の私たちがあります。戦後80年、国外は絶え間なく紛争にさらされ、国内にあつても平和と繁栄と一概に言えない状況を抱えつつ、平穏に暮らせる幸いを感謝し、8月は静かに思いを新たにします。

祖父は2度応召され、満州で終戦を迎え、8月8日対日参戦したソ連に捉えられ、約2年シベリアに抑留されます。持ち帰った荷物の中に大きなスプーンがあり、錆びて黒ずんだそれは今も残っています。

残された家族は、東京大空襲で、家の前の府立三中(都立両国高校)に逃げ込みますが、火が移ったため、横十間川に逃れ、水を掛け合いながら生き延びます。縁故疎開で茨城・土浦にいた



父は、東京方面の空が真っ赤だったとよく話します。

昭和59年、わたしは千葉から

上京し、その高校に通い始めます。

一帯が関東大震災でも空襲でも犠牲者が多数出たことを知り、関心を深める中、山田風太郎の『同日同刻ー太平洋戦争開戦の一日と終戦の十五日』という文庫本に衝撃を受けます。

指導者、軍人の行跡のみならず、作家の日記や民衆の手記により、1日1日が再現されていきます。敗戦の15日間は2つの原爆、外地での惨状、国内の混乱がこれでもかと描かれ、胸が引き裂かれます。一方、開戦の1日は、大半の人の「開戦止む

なし、新たな時代が始まった」との興奮にも似た心情が描かれています。この凄烈な対比に、自分もあの時代に放り込まれたら、どうなっていたかと、自分の考えや理解は吹き飛びました。自分の中に揺らがなかったら、自分の考えや理解は吹き飛びました。自分の中に揺らがなかったら、自分の考えや理解は吹き飛びました。

戦後80年、内外の動きや発言の中に新たな戦前を感じさせるものも少なくありません。戦争を知らない者たちが大半になった今、あの暑い8月を『同日同刻』で辿りつつ、その継承と「過ちは繰返しませぬから」という覚悟を静かに強めています。